

大妻高校 ○徳増レ子, 大妻女大家政 大竹智恵子 大森正司 岡田英代
 岡本順子, 東京農大農 加藤みゆき, 図書館情報大 佐々木敏雄,
 岐阜大教有 長野宏子

目的 昨年度の本大会において、日本家政学会大会講演要旨集を対象に、家政科学技術分類表(CHE)を用いて中項目レベルでの解析をした。本年度はさらに、小項目、細項目レベルでの解析を行い、より詳細な知見が得られたので報告する。

方法 昨年度と同様、日本家政学会総会講演要旨集 1979年～1980年の5年間約2400件の研究課題をデータベース(CHE)を用いてインデクシング、出現頻度、共出現頻度、連関度について、外国文献社製 Pasky III-9を用いて解析した。

結果 ① 研究課題約2400件をCHEによりインデクシングした結果、小項目レベルでは21640個の標数が付与され、その標数の種類は329であった。またこれをZipf型分布と比較したところ、CHEは文献の蓄積検索用として実用に耐えるものであることが実証された。② 出現頻度の小項目レベルで最も多か、たものは「分析化学」で1027、ついで「人間生長段階」の767、「原料別食品」の673であった。また中項目レベルでは上位10位までに出現しな、た「情報」「生理学・生化学・生物物理学」は、小項目レベルでは6位、11位に出現していた。③ 中項目レベルでの出現頻度の多か、た「生活環境用品」は小項目レベルでは、「原料別食品」次いで「服飾」の要素技術が多くを占めていた。④ 分野別では、食の技術においては、「調理」の要素技術が多く、被服では「被服製作」、住居では「選定入手」、家庭経営では「家族関係」が多く認められた。